

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成17年1月(2005年)No.469

新年ご挨拶

明るく、楽しく、一層充実したクラブへ ---作品研究会も再開---

明けましておめでとうございます。昨年は台風や水害、中越の大地震、国際的にも益々泥沼化するイラク戦争や年末のスマトラ沖大地震とそれに伴う津波の災害など、暗い話題が多くありました。一方、映像の世界では、ハイビジョンがアマチュアの世界にも入り込み我が OMC 例会でも早速ハイビジョンの映像が紹介され、その鮮明な映像に溜息が出るなど明るい話題もありました。

例会といえば、この数年。毎月の平均出品数が 12 本台に推移してきたのに、昨年度はおよそ 3 本増えて 15 本台になって喜ばしい限りですが、十分な講評や助言などの時間がとれないという悩みも出て参りました。例会出席者も多いときは 30 名を数え、会員諸氏は皆さんお元気でビデオを愛し、例会を楽しんで頂いておられる方が多きことを実感し、誠に慶賀にたえないところであります。

今年は 12 月を除く偶数月に、例会前の午後に作品研究会を再開したいと思えます。作品について皆さんの声を聞いて手直ししたいとか、コンテストに応募するための助言が欲しいとか、公開映写会に向けて少しでも悪いところを直したいとか、そういう会員さんの期待に応えたいと思えます。

OMC が近畿地区アマチュア映像界のリーダー的存在として活躍しているのも、ひとえに世話役の皆様はじめ会員諸氏のご協力ご支援の賜物と感謝しております。OMC が益々楽しく明るい充実したクラブになりますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げ新年のご挨拶といたします。

1月例会は16日(日曜)13時より開催

1月例会は総会と新年会を行う関係で日曜の昼間の例会となります。
場所はいつもの通り、難波市民学習センター(JR 難波 OCAT ビル 4 階 第4研修室)です。どうぞ作品をお持ちになってお集まりください。
年会費未納の方は会計まで 8,000 円を収めてください。
年初めの例会にぜひどうぞ

■例会に引き続き「総会」を、更に場所を変えて「新年会」を開催

総会は、例会作品上映終了の後、引き続き行います。恐らく4時頃になると思います。時間の関係で年度賞ほか各種表彰は新年会で行うことも考えられます。その場の時間の都合で考えます。

新年会の出欠ハガキをまだ出していない方は至急会長宛て出してください。

例会活動過去5年間の実績

		1例会当たり		年間
年度	会員数	出席数	作品数	作品数
H12	37名	23.1名	11.5本	17.2※
H13	41	25.3	12.4	14.9
H14	37	26.4	11.3	13.5
H15	40	26.1	12.3	14.7
H16	40	27.6	15.2	18.2

※の年は会計年度変更で15ヶ月

注) 撮影会作品を含む

平成16年度は、急激に作品本数が増えてきたことが、統計によっても明らかです。会員諸氏のご熱心さのあらわれで、ご同慶の至りです。質的レベルも向上しており今年のフェスティバルが楽しみです。

■例会最多出席者

- ・全出席者：江村、奥、金子、進藤、前田、増池、森、安居、吉岡、渡辺の10氏
- ・11回出席者：紙本、藤原、森口の3氏
- ・10回出席者：有村、河合、上総、合原、関、宮崎、森田、山本の8氏

■最多出品者

- ・全例会出品者：江村、増池の2氏
 - ・11本出品者：奥、前田の2氏
 - ・10本出品者：有村、安居の2氏
- 以上万障繰合せて例会に出席して頂き、作品を出品され会を盛り立てて頂きましたことを感謝します。

全国コンテスト入賞

おめでとうございます

- ・第5回ユーリードショートムービーコンテスト・ドキュメンタリー部門賞「a day」 有村 博さん

12月例会のレポート

暖冬の年だったとはいえ、さすがに師走

になると寒さも一段と身にしみるようになりました。例会日は丁度クリスマスの日で集まりが心配されましたが、何と30名からの会員さんが集まり盛会となりました。

会員諸氏はどうやらクリスマスのパカ騒ぎはとっくの昔に卒業された方ばかりのようです。

今月の司会は、安居氏、書記、合原氏、デッキ係、岡本、江村の両氏、受付件スッチ係は森口、奥の両氏の担当でした。

■出席者：有村、江村、岡本、奥、上総、金子、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、玉井、那須、西村、華岡、秦、藤原、前田、増池、松本、宮崎、森口、森、森下、安居、山本、吉岡、渡辺、石垣の30氏。

■上映作品（今月の講評担当は合原会長）

1. 念仏寺

増池 茂さん

9分50秒

関さんの作品「パロディ合唱」を見て、どんなどころかと撮りに行っただと、作者より事前説明があって上映、最初は化野念仏寺の地蔵さんが出たのでアレッと思いましたが、ようやく”合唱”と同じ愛宕山の念仏寺の地蔵さんが出て納得。前半の化野念仏寺は三脚禁止の場所で全部手持ち撮影、後半は三脚ガッチリの映像なので、手持ち撮影の分がよけいグラグラ感が強調されて損されています。思い切って作品を二つに分けたらどうでしょう。お地蔵さんは顔の表情がポイント、喜怒哀楽の人生の生き様を強調した、そしてそれに合わせたBGMで盛り立てる、といった演出を心がけた作品づくりをなさると、もっと共感を呼ぶ作品になったと思います。選曲にもっと留意されますよう……。画面にも動きが欲しい。

2. 上野の鬼行列

森口吉正さん

9分15秒

伊賀上野の天神さんのお祭の記録。鬼を中心とした仮装行列が主ですが、祭の由来などの解説があって判りやすく安心して楽しく拝見しました。子供の泣き顔や、親にしがみついて恐ろげにしている少女の姿などインサートカットが実に適切に挿入されています。仮面を取ってひと休みする人の情景は、いかにも地方の祭らしい雰囲気が出

だよってよかったと思います。だんじりなどもあったようですが、省かれたのは正解でした。

3. 湖東散策「西明寺」

渡辺雄史さん 4分05秒

三脚禁止のお寺さんですが、恐るおそる三脚を使って撮影されたというご苦労さんの作品。その甲斐あって安定した画面は、安心して拝見できました。しかし落ちついてゆっくりと撮影できなかつたせいか「西明寺」そのものの描写は中途半端なものになっています。落葉の掃除はインタビューで大変なことが理解できました。

上映中、絵とび音とびが何ヶ所も発生しましたが、家では出ないということなので機材との相性のせいでしょうか。

4. 天空の華（改作）

河合源七郎さん 7分41秒

10月例会で発表された作品を見直して約1分縮めた、との作者のコメントの後、再上映。迫力ある花火の映像は豪華な花火大会だと見とれてしまいます。しかし、同じような画面の繰り返しですので、まだ少し長いなあというのが実感です。

スチール写真の作品では、特殊技法を駆使して色んな花火の表現をしたのを写真展などで見ますが、ビデオ映像でも何か工夫をこらして幻想的な映像はできないものかと思っていますが、難しい課題でしょうか。

5. よさこい2004（ワイド）

江村一郎 7分05秒

9月例会では夜の部を発表されましたが今回ののはその昼の部。夜の部もなかなか迫力がありましたが、昼の部もダイナミックな映像はさすが江村さんです。インサートも印象的な良いカットが効果的に採りあげられて雰囲気盛り立てていました。現録だけの音を使われたので画面の切り替えの際、その音処理に若干不自然の感じがしましたので再検討してみてください。

6. ヒマラヤのクリスマス

山本正夢さん 9分20秒

山本さんには、毎回ほとんど観光客の行かない中国、東南アジアなどの奥地の映像を見せて頂き楽しみにしていますが、今回は雲南省とチベットの国境のところでミャ

ンマーにも近いところの村へ、クリスマスの日に行かれたときの映像でした。日本でのクリスマスの騒ぎは通常は信者でもない若者たちの行事のようになっていますが、この村でのクリスマス行事は、信者だけの集まりだそうです。民族衣装に着飾った娘さんたちの合唱や踊り、演奏など村の楽しい行事の雰囲気が伝わってきました。

7. 秋の神域

吉岡貞夫さん 6分53秒

日吉大社関連の重要文化財的な建物や古い橋など丹念に撮影され、判りやすく紹介されています。”秋の”神域と、季節感を題名に持ってこられました。11月はじめで、まだ紅葉が色づいてなくて秋のイメージには早かったのは残念です。この場合このタイトルがぴったしなのか再検討の余地がありそうです。吉岡さんらしくよく調べてナレーションを入れて結構な作品ですが、何かひとつもの足りない、印象に残らないように思ったのは、自分の言いたい事、やま場のつくり方に課題があるのではないかと、そんな気がしました。

8. 熊野三山

紙本 勝さん 10分00秒

熊野は世界遺産に登録された場所、作者の今回の旅は、関連する神社や王子などをこまめに回られて撮影されています。例によってよく調べ上げて解説されていますので大変解り易く描かれています。

熊野古道や神社など現代人に何故こうも見直されているのか、作者なりの考えや見解がもっと強調した作品構成になっていればもっと奥行きのある作品になるのではないかと思います。如何でしょうか。

9. 秋色（ハイビジョン）

前田茂夫さん 5分10秒

ビクターのハイビジョンカメラでの映像ですが、さすがにシャープな映像には何度見ても溜息がでます。編集はプレミアプロ1.5で行われた由ですが、誰でも容易に編集できるまでにはまだ時間がかかりそうです。まだ元気でいればの話ですが将来を楽しみにしておきましょう。

作品としては類似カットが多く、今ひとつしたが、ハイビジョン映像のテスト作品

としては、あざやかな紅葉の発色、屋根瓦のシャープさ等、充分な映像でした。

10. クイーンズタウン周辺

那須典彦さん 5分32秒

ニュージーランド紀行作品のひとつ。今回の作品は、クイーンズタウンの郊外に展開する雄大な景観をプロのナレーションで解説されています。アロー川の清流では、昔、砂金ブームで町ができたこと等が語られます。ラストシーンは高い橋の上から、足首に綱をつけて川面に飛び込むという、シーンでしめくられました。観光映画の見本のような作品でした。

11. 石仏探訪

有村 博さん 10分00秒

大分県国東半島臼杵の石仏群は、国宝にも指定された立派な古い石仏だそうです。

日本の石仏の8割はここ国東半島に集中しているようで、作者はそれを撮りたくてわざわざ足を運ばれたようです。フィルム時代では光量が足りなくて撮影できなかった薄暗い場所での撮影ですが、暗さに強いビデオカメラの威力が発揮されています。

判りやすく自分の言葉でナレーションを入れておられるので安心して拝見できましたが、BGMの選曲に違和感があったのは私だけだったでしょうか、もう少し、しっとりした日本的情感のある曲が欲しい気がしました。

12. 天王寺ワッソ (ワイド)

金子博泰さん 12分00秒

撮影場所は天王寺でセレモニーのあと、大通りへ行列がくり出す、前にやっていた行事かと思っていましたが、今年はNHK近くの難波宮跡の広場での式典で、パレードも広場だけだったそうです。

式典を丹念に撮られています、バックがビルの外壁で青空でないのが如何にも残念。現地の出席者案内の声が画面と合わない等、カメラ位置にも問題があったようです。こういう式典の意味、解釈など字幕などで説明されるともう少しは理解できる作品になったと思います。また、現場音を活かしつつ短く編集することも心掛けられると一段と良い作品になると思います。

13. 日本庭園散策

宮崎紀代子さん 3分00秒

万博公園の日本庭園にこの11月に行かれて撮影されたビデオスケッチ。入場門すぐ前の大池、鴨、鯉、紅葉、滝、流れなどがでできます。題名が”散策”ですから、ご自分が主役で登場されたらもっと良かったと思います。三脚をすえてスイッチを入れて自分が庭を見ている、鯉に餌をやっている、ブラブラ歩いている等を、画面のポイントに入れれば、自分らしい”散策”の作品になったと思いますが、参考にしてください。

また流れの現録もレベルが高すぎたようですので、ムードをこわさないよう低めに抑えてください。

14. 或る動物園の動物達

奥 宏さん 5分20秒

題名に”或る”とありましたので、どこの動物園かと思いましたが、最後に通天閣がでて天王寺動物園の入口看板がでて場所をラストに紹介されています。大阪以外の人なら、どこの動物園だろうと最後までナゾ解きの関心が湧くかもしれません。トップシーンの象の水浴びが、後半にもたっぷり出ますので、最初の水浴シーンは省いたほうがよいと思います。題名の動物園の動物と「動物」がだぶっていますので、ここは「～の主役たち」など変えられた方がよいかも知れません。見物人等のインサートには、なかなか良いカットがありました。

以上で全作品の上映が終わりましたが、今月は珍しく9時前に終了、今年最後の例会とあって、いつものように喫茶組と居酒屋組とに別れてそれぞれ2次会を充分に楽しんでから帰路につきました。今年も皆さん元気でOMC例会でお会いしましょう。

安居さんNHK全国放送に出演

年末の12月29日18時5分よりNHK総合全国放送、アマチュアビデオ年末スペシャルという40分番組で、故安居良枝さんを偲びつつ生きる夫の安居利次さんを取材され作品の一部が放送されました。多くの方が見られたと思いますが、あらためて亡き良枝さんを偲びました。